

式 辞

平成31年1月8日

皆さん、おはようございます。そして、あけましておめでとうございます。

いよいよ、平成を締めくくる、3学期が始まりました。一年の計は元旦にあり、の言葉のように、今、皆さんは2019年をこういう年にしよう、こんな年にしたいという抱負や希望を持って、今ここにいると思います。

昨年末に発表された平成30年を表す漢字は災害の「災」の字でした。過去に例を見ないほど皆さんの自然災害が次々と我が国を襲ったことは、皆さんも記憶に新しいところだと思うので詳しくは触れませんが、皆さんは「災い」の漢字を使ったことわざや慣用句といわれてどんな言葉を思い浮かべますか。

「天災は忘れた頃にやってくる」自然災害はいつ襲って来るか分からないから、油断をしてはいけません。大丈夫と思って油断していると災害に見舞われ、大変なことになる。昨年のように次々災害が起こると忘れる暇も無いけれど、そのくせ自分は大丈夫と思っていませんか。

「わざわい」にはもう一つこんな字もあります。先ほどの「災」が「順調な生活を阻む災害」を表すのに対し「禍」は「思いがけない落とし穴・不幸」を表します。これを使ったものに「禍福はあざなえる縄のごとし」がありますね。災いと幸せは藁をより合わせた縄のように、交互にやってくるものだ。災いの後には良いことが待っているから、望みを失ってはいけません。反対に幸せに浸って油断していると、不幸な出来事が起こるものだから気を引き締めよ。という教えですね。

さて今日私が皆さんに伝えたいのは「災いを転じて福となす」ということわざです。災いはこちらが望まないのに否応なく向こうからやってくるわけですが、その災い、うれしくないこと・不幸と思われることの中には、考え方や工夫によって良いこと、成功につながられるものがあります。

7月の西日本豪雨災害のように人の命や大切な家屋、みかん園が失われるほどの大災害は当てはまりませんが、私たちの日常に生じる災い、失敗とかトラブルと呼ばれるものは、それを反省点として努力のきっかけにしたり、自分の都合だけでなく広い視点でとらえたりすることによって、プラスの面が見えてくることがあります。以前山本先生が話されたプラス思考も同じです。

平成最後の年、2019年がみなさんにとって良い年であることを心から祈るわけですが、うれしくないこと、残念なことも起こるでしょう。そんなとき皆さん一人一人が「災いを転じて福となす」力を身につけてくれることを願います。良い年であることを祈るだけでなく、良い年にするためにすべきこと、できることをしっかりやっていきましょう。